

5. 地下水

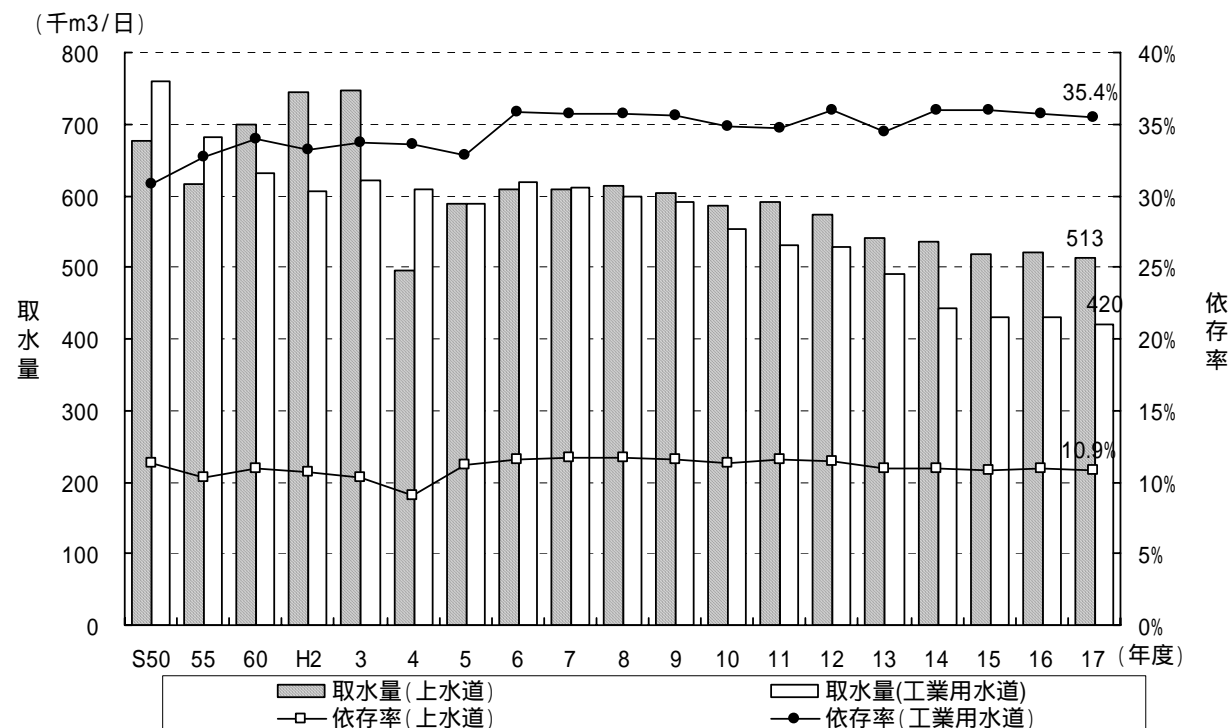
(1) 利用水量

地下水は、良質、簡便で安価な水資源として生活用水をはじめ各種用水として広く利用されてきた。

個々の使用者が独自に設置した取水施設により地下水を取水するため、正確に取水量を把握することが難しいが、上水道における地下水取水量は、平成17年度現在約51万m³/日となっている。また、生活用水の地下水への依存率は平成5年度以降ほぼ横ばいで、平成17年度は10.9%となっている。

工業用水道からみた地下水取水量は平成17年度現在約42万m³/日となっている。また、地下水への依存率は、平成6年度以降ほぼ横ばいであり、平成17年度は35.4%となっている。

地下水を利用している地域は、琵琶湖周辺の湖東・湖南平野で多く、地下水への依存率は琵琶湖・淀川流域全体の中では比較的高くなっている。京都盆地では、桂川、宇治川、木津川の3川に沿った地域で比較的多く利用されている。また、大阪平野では、昭和40年前後を境に次第に減少してきたが、近年は占用水道等、独自の水源を確保しているところも増えてきている。



【図2-8 地下水利用量】

注)工業用水の集計の対象とする地域は、琵琶湖・淀川流域に、一部または全部が含まれる市町村を含む工業地区である。

日本水道協会「水道統計 施設・業務編」
 財務省印刷局「工業統計表」より作成
 詳細は資料2-20を参照